



Newsletter
No.71
2017年2月5日

発行 レイバーネット日本
〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108
http://www.labornetjp.org
labor-staff@labornetjp.org
電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

2017年「トランプ・安倍」暴走政治 NO !

～レイバーネット TV 新企画目白押し～

「指先に翻弄されるこの地球」「年明けて去年のまさかと向かい合い」・1月レイバーネット川柳句会に寄せられた句は、トランプ時代へ警鐘を鳴らしている。1980年前後から米英などを中心に広がっていた新自由主義的政策が、ついに大きな曲がり角を迎えた。アメリカでは矛盾が深刻化し、「勉強したくても大学に行けない、病気になっても医者にかかれない、ドラッグ汚染が深刻で1日129人が過剰摂取でなくなる」など凄まじい貧困格差社会が生まれている。こうした新自由主義政策への人々の不満がサンダース旋風を呼び、トランプを勝たせることになった。しかしトランプの政策は期待できない。かれはさっそく「アメリカファースト」「排外主義」を打ち出し、地球を壊しそうな勢いだ。日本政府・企業への影響も計り知れず、そのツケは日本の民衆・労働者に及んでくるに違いない。アメリカでは大統領就任の翌日に、50万人という「反トランプ」大デモがワシントンで行われた(写真)。日本では「共謀罪」など安倍がますます暴走。2017年は、日米のトンデモ指導者「トランプと安倍」にしっかりノーを突きつける年である。

と思われる。1月24日のレイバーネットTVプロジェクト会議では、より充実した番組づくりをめざして意見交換が行われた。その中で「斬新な切り口・今と結びつくアクチュアリティ・若い世代に繋いでいく」の3つにポイントが強調された。ぜひあなたもレイバーネットTVの活動に参加しよう。



レイバーネットTVに初登場するトランプ人形

●レイバーネットTV ことし前半の計画

通算100回をこえたレイバーネットTV。新しいメディア発信の場としてその役割はますます大きくなっている。去年は全部で16回の放送をした。98号「あれから五年 福島からの避難者は今」(短縮版)や112号「現役店長が語るセブン・イレブンの正体」は、それぞれアーカイブのアクセス数が4万をこえた。また107号「築地でええじゃないか!」では恰好のタイミングで、運動側の主張を出すことができた。今後、マスコミ自主規制が強まるなか、ますますネットメディアの役割は大きくなる

<2～3月の予定>

(タイトルは仮。各日午後8時～9時)

●第113号 2月8日(水)

特集「非正規差別なくせ!メトロコマース裁判・いよいよ判決」。3月23日に出る判決は二千人非正規労働者の帰趨に関わるもの。番組では歌や寸劇(証人尋問再現)を交えて多角的に迫りたい。また山口正紀のピリ辛コラムでは「共謀罪」を取り上げる。

●第114号 2月22日(水)

特集「韓国のたたかいから希望が見える!～韓国サンケン労組とパククネ退陣闘争」。中心的活動

<3ページ下段へ続く>

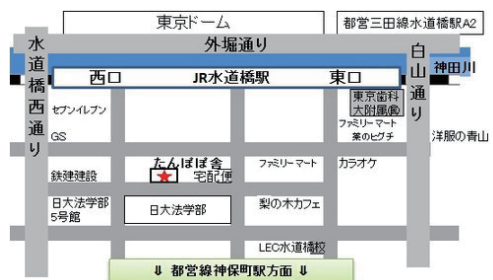
●レイバーネット 2017 総会のお知らせ

ことしの総会は下記の日程で行います。なお二部の特別企画は「われわれのメディア」をテーマに行います。それにピッタリの新作講談「三面記事の由来-公害・戦争と闘ったジャーナリスト達」(甲斐織淳/25分)をぜひやりたいと考えています。年一回の総会にぜひお越しください。

- ・とき 3月18日(土) 13時開場
- ・ところ スペースたんぼぼ(東京・水道橋7分)
TEL03-3238-9035

- 第一部 13.30～15.00 総会
活動報告・会計報告とディスカッション
新役員選出など
- 第二部 15.10～17.00

「われわれのメディア」を考える
講談「三面記事の由来」(甲斐織淳)
スペシャルトークゲスト=未定



レイバーフェスタ 2016

たたかう文化にある力と楽しみ

岡野奈保美

12月17日、田町交通ビル六階ホールで「レイバーフェスタ 2016 文化でとめよう！アベ暴走」（170名参加）が催された。2002年にスタートし今年で15回を迎えた今回、労働・生活・たたかいの場にしつかり腰を据えた記録映画、三分ビデオ、うた、川柳、講談など、15年の歳月で培ってきた手応えのある作品を楽しむことができた。

今回注目したのはオープニング上映の『オキュパイ・シャンティ〜インドカレー店物語』（ビデオプレス 2016年初公開 43分）。丸裸で日本の街中に追い出されようとしているインド、バングラデシュの15人の移民労働者たちが、未払い賃金の支払いと雇用の確保を求めてたたかうプロセスの記録だ。「解雇・お店閉鎖が通告されています。賃金が2年払われていません。助けてください」。今年6月、たたかいはこの一枚の紙を店頭に貼ることからはじまった。カメラは言葉もよく通じない移民労働者たちと、かれらの悩みを聞き着手金ゼロで奔走する指宿昭一弁護士に密着取材していく。カメラはかれらに問いかけ、一緒に怒り、悩み、励まし、同じ労働者として連帯する。感動的なのは一度は拒んだ組合結成をかれらがそれしかないと立ち上がる組合結成の瞬間を、委員長を選ぶシーンなど生き生きとした躍動を写し撮っていることだ。終映後、紹介された指宿弁護士から、立場の異なる労働者たちがそれを乗り越え組合を結成するまでには多くの困難があったことが語られた。このドキュメントは、日本社会で働く移民労働者の実態を炙り出すとともに、かれらと一緒にどうたたうかを考える貴重な作品だ。

川柳班の一年の活動をスライドと朗読で紹介した「川柳で世の中見せるおもしろさー鶴彬に学ぶ」は、月1回の定例会だけでなく原発、沖縄、アベ政治への抗議集会に川柳を掲げて参加する「川柳デモ」や、経産省前テント撤去に抗議する川柳を募り『脱原発川柳瓦版』を発行したり、反戦川柳作家鶴彬・剣花坊祭への参加と鶴彬の川柳紹介、ドイツ人青年の句会への投句やドイツでの川柳デモなど、川柳班の活動の広がりを感じた。フェスタ川柳も52人から105句の応募があり、特選に奥徒の「駆け付けて九条撃てと送り出し」が選ばれた。伝統ある反戦川柳誌『川柳人』の表紙を飾った川柳班のこれからに期待したい。

ドキュメンタリー『選挙が生まれるー長野と群馬の挑戦』（湯本雅典 2016年 71分）は、2016年参院選の長野（杉尾ひでや候補）、群馬（堀越けいにん候補）の選挙に密着取材し、野党共闘の動きをカメラに収めた。かつてない25万票近くを集めたが中曽根候補に敗れた堀越青年はフェスタ会場に駆けつけ、早くも次期選挙を見据えた力強い発言で共感を得た。「選挙とは生み出すもの」の視点に立った明日へつなげる力作だ。

舞台では11年間築地市場で働いた経験を持つ高橋織丸が石原都政と豊洲移転のどす黒い闇をうつ



講談『人を喰う魚・豊洲移転騒動の巻』。うたのコーナーは、撤去された経産省前脱原発テントひろばで、今年末120回目を迎えた「After 311～霞ヶ関の中心で愛を叫ぶ」、通称「カスチュー」の歌手たちが登場、替え歌、パフォーマンスも交え会場を盛りあげた。

恒例の三分ビデオは14本発表された。初期の頃の「長編作品の予告編」「集会やデモの安易な切りとり」は姿を消し、どの作品にも制作者の主張が整理され三分の中に凝縮されていた。紙面の都合で14本の中身にはふれられないが、これらはYouTubeで観ることが出来るのでおすすめしたい。

今年のレイバーフェスタは、参加型企画が豊かな実を結んだ催しとなった。メトロコマース、沖縄リレー、来日中の韓国サンケン労組のアピールで幕を閉じたが、大交流会ではメトロコマースの替え歌や参加者、制作者の忌憚ない意見・感想で大いに盛り上がった。「文化はたたかいの中で生まれる」をここでも実感した。（「思想運動」994号より転載）

●上映された3分ビデオ

- 山崎精一「シカゴの一日」
- 古橋佳樹「若者の背中には？」
- 長崎浩「東京東部労組 2015.9～2016.9」（韓国サンケン労組賞）
- 土屋トカチ「真の関西人」
- 壺花花「当世いろはカルタ」

稲垣浩「東京オリンピックおことわり TV」
前田健司「音楽のチカラ～被災者だからってよくよしない」
堀切さとみ「夢の国」(志真秀弘賞)
松原明「あなたのことを忘れない」
見雪恵美「沖縄に基地をつくるな」(メトロレディー賞)
湯本雅典「共闘 次の一步へ 群馬・タウンミーティングの試み」
木下昌明「発見」
津田修一「中村さん」(松元ちえ賞)
亜北斎「こどもは可愛い」

●川柳選句結果

<特選>

駆け付けて九条撃てと送り出し 奥徒

<秀逸>

右旋回明治は近くなりけり 斗周

非正規が増えてばかりで子は増えぬ はぐれ雲

三万を配り年金削り獲り おおとり

遺言を書かされて行く警護の地 はずな

狂犬と尾を振るポチのツーショット 中仁也

<佳作>

平和主義忘れちゃいけない君の名は 芒野

忍び寄るマイナンバーにスキャンされ 笑い茸

返金で済まぬ泥棒済む議員 キング・コングウ?

列島の憤怒はすでに発火点 乱鬼龍

当選をさせて後から怖くなり 中仁也

●アンケートに寄せられた声 (一部)

- ・レイバーネットの文化は進化し続けている。
- ・長野で野党共闘候補の杉尾さんが当選した理由が『選挙が生まれる』を見て、メディアの伝えない

<1ページ上段より続き>

家のキムユニオンさんらが出演。また現地馬山の工場前で泊りこみテントでたたかうサンケン労働者と生中継で繋がります。

●第115号 3月8日(水)

特集「3.11 フクシマを忘れない」山崎久隆さんの事故解説とフクシマの避難者など当事者証言。

●第116号 3月22日(水)

オープンチャンネル企画 特集「メキシコの車窓から」列車はアメリカ国境沿いを走りながら、トランプの壁政策を問う。メキシコ人多数がスタジオ出演予定。

<準備中の企画>

●死刑廃止問題

日弁連が死刑廃止宣言をしたものの世論は冷やかか。この機会に死刑の現状はどうなっているのか。死刑囚の置かれている現実。被害者感情の問題。人が人を殺すことについての根源的問い。などに迫りたい。ゲスト候補交渉中。

●本の発見

「2016 わたしの一冊～本の発見」の続編。今回は20代の若者と一緒に番組企画をすすめる。1/27に打合せ会議を行い、取りあげたい本を出し合った。また新アンケート「あなたが社会にめざめた本は何ですか?」を実施し番組に取り入れる。4月26日

情報の一端がよく見えた。

- ・初参加です。レイバーネットの文化を通じての企画、とても好きです。



- ・『選挙が生まれる』、堀越さんのトークが良かった。『シャンティ』、日本人弁護士の働きに感動した。元気とやる気をもたらしたイベントでした。
- ・3分ビデオの審査発表、ほのぼのとして良かった。
- ・サンケン労組の参加が印象に残った。
- ・『シャンティ』で起きていることは信じられない。来年もぜひ来たい。(福島からの参加者)
- ・映画のどれも良かった。『シャンティ』、テントひろば(ライジングマツ)の歌などを通して現実の深刻さと闘うことの大切さを思った。『選挙が生まれる』、とても見ごたえがあった。自分たちの代表をこの町から出そうという人々の熱意がダイレクトに伝わってきた。
- ・外国人労働者が不当な労働条件で、屈辱的な生活をしていることに日本人として、心が痛む。この劣化した日本の労働環境を、日本国内と海外の労働者が連帯して生活向上の闘いとすべき。
- ・初めての参加です。どの企画もみんなよかった。インド料理店の実態に驚いた。選挙の映画もすばらしいドキュメント。講談では豊洲市場の問題がよくわかった。

の放送をめざしたい。

●巨大ブラック企業・日本郵政の実態

日本郵政グループは約40万人が働く巨大企業。半数の20万人は非正規労働者だ。そこで、差別・いじめ・過労死が蔓延し昨年の「ブラック企業大賞特別賞」となった。そのマンモス企業の職場実態に迫りたい。

●激安通販プリントパックの実態

激安印刷通販のプリントパックで、組合差別とたたかっているプリントパック京都分会との出演交渉が進んでいる

●紙芝居「東京大空襲」

30代の山岡さんがやっている。30分なので他の企画との抱き合わせなど考えられる。

●日中戦争80年

ふたたび日中の中でキナ臭いムードになっている。今年は日華事変(7月7日)80周年の年。いま日中戦争の歴史を振り返ることはとても重要だ。中学生が「731部隊」を描いたわかりやすい紙芝居を最近発見。時間をかけて具体化していきたい。

<その他検討中>

共謀罪(国会情勢をみて)、スラップ訴訟について(烏賀陽弘道さん)、生田暉雄弁護士「裁判オンブズ」、衆院選、労働相談舞台裏、沖縄米軍基地、シリア問題、介護労働問題、マスメディア批判、など。

100日をこえた韓国サンケン労組遠征闘争 レイバーネットメンバーが全力応援

韓国サンケン労組の遠征団がレイバーネットの会議に参加し支援要請をしたのが、2016年10月19日だった。レイバーネットでは微力であるが全力で応援していこうと決め、行動参加や報道などこの間、さまざまな取り組みを行ってきた。2月22日のレイバーネットTVでは「韓国サンケン労組のたたかい」を特集することも決まった。以下は、この間、通訳兼コーディネーターとして寄り添ってきた尾澤邦子さんの最新「闘争日誌」である。

韓国サンケン労組が、昨年10月から埼玉県新座市にあるサンケン電気本社前で、「解雇撤回」「職場復帰」「話し合いを行え」と訴え、朝7時からの出勤闘争を始めて100日を超える。今韓国サンケンでは管理者と外注により生産が行われている。この解雇は、生産現場で働く労働組合員たちをつぶす、組合つぶしの解雇だ。2016年12月27日には韓国の地労委で「解雇は不当」「職場復帰」の判定が出た。グローバル企業であるサンケン電気のこの行いは、外資企業の横暴として、韓国のマスコミでも大きく報道されている。会社は判定に従うべきだ。

韓国では1月27日から旧正月で連休になる。家族が集まってお祝いする日なのに、会社の前の



昨年10月のレイバーネットTVでショートアピール



26年働いてクビを切られたキムウニョンさん

路上でビニールテントの中で正月を過ごさなければならぬ仲間たち。遠征闘争団は暗い気持ちでいた1月27日、所沢労音の方たちに招かれて事務所を訪問した。鍋料理を作り、歓迎してくれた。民族芸能をやっている方たちで、獅子舞や箱人形の踊り、また「イムのための行進曲」や「朝露」などの歌を韓国語と日本語で披露してくれた。韓国サンケンの仲間たちはそれまでの暗い顔が、ぱっと明るくなり、元気になった。ユルトンとお礼のあいさつを行った。文化の交流で当該を激励できたことはうれしい。またしても文化の力の大きさを感じた。(「1.27 サンケン闘争日誌」・尾澤邦子)

● 8時間働いたら帰る、暮らせるワーク ルールを！～ネット署名はじまる



雇用共同アクションの呼びかけで「8時間働いたら帰る、暮らせるワークルールをつくろう。」のネット署名(日本政府宛)が始まりました。長時間労働や夜勤交替制

労働など、過重な負担を強いる働かせ方によって心身の健康を損ない、過労死や過労自死に至る人の数は、労災認定されるケースだけでも、毎年500人近くに及びます。しかも、それは氷山の一角です。過労による心身の健康破壊の問題は、働く人や個々の経営者の努力だけでは解決できません。法律による規制強化が必要です。労働基準法の改正がなんとしても重要です。生きづらい今の社会と働き方を変えるため、「わたしの仕事8時間」プロジェクトに、ご協力ください。(「呼びかけ」より) →署名サイト <http://3step.me/3fcb>

A 会員から B 会員に切り換えて 財政を支えてください ～事務局からのお願い～

レイバーネットの活動は広がる一方ですが、財政状況は決してよくありません。とくにレイバーネットTVは収入が少なく、「スタジオ代・出演費・機材費」など支出項目が多いのです。今後の安定した活動を支えるために、ぜひ以下をお願いしたいです。B会員への変更が増えれば、財政はぐっと楽になります。

- 1, 会費がたまっている方は納入をよろしく。封筒の宛名のところに「納入状況」が書いてあります。
- 2, キャンパが出来る方は、些少を問わず歓迎です。
- 3, 現在、A会員=年3000円とB会員=年5000円の二本立てになっています。B会員を数年前につくったのはTV財政を支えるために「通常会費3000円+TVサポート2000円」という位置づけでした。現在、A会員は約500人でB会員は約60人です。ぜひ可能な方はB会員に切り換えていただければありがたいです。なお宛名ラベルのところに、A会員は「A2017年・・・」B会員は「B2017年・・・」となっていますので、どちらの会員からをご確認ください。

レイバーネット日本の会員になりませんか

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000円
(B会員=5,000円 通常+TVサポート)

現会員数 573名
ウェブアクセス 1日6,000

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本
銀行口座 東京都民銀行 小竹向原出張所
普通 55002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org
電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578